

火退ほそげ 堂本印象

一幅

昭和十三年（一九三八）  
二一三・三×一一九・二  
絹本着色

堂本印象（一八九一～一九七五）は、京都市立絵画専門学校在学中に出品した第一回帝展で初入選を果たし、第三回帝展では特選をとるなど、若くしてその才能が認められた。大正期から仏教的主題の作品を発表していた印象は、昭和期に入ると京都仁和寺や東福寺をはじめとした寺院の襖絵や天井画を数多く手がけるようになっていく。そしてその一方で記紀神話をモチーフにした作品を同時期に発表しており、昭和十三年（一九三八）に作者より献上された本図もその一例と見えよう。

本図で描かれるのは、東国征伐のために出征した日本武尊やまとのむすね

が、駿河において相武国造すがむのくにのみやつこの計略にはまって野火攻めに遭いながらも、倭姫命やまとのひめのみことから授かった天叢雲剣あまのむらぎのつるぎと火打ち石を用いて難を逃れるという、近世からしばしば絵画化されてきた記紀神話の有名な場面である。印象は炎も敵の姿も描かず、日本武尊の逆巻く髪や衣服の様子、赤く上気した頬の描写などで勢いよく燃え上がる炎のすさまじい熱気や熱風を表現している。また日本武尊の裾をふくらませた衣服や刀剣の形状などは、埴輪や古甕を参考にしたものであるという。このように近代において、考古学的な時代考証を踏まえて、神話の神々の姿を古墳時代の風俗で描くことが通例となった。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan